

《短報》

背中線のあるツチガエルの記録

徳永浩之

〒750-0322 山口県下関市菊川町檜崎 752

山口県からは13種のカエル類が確認されている(岩国市科学センター, 2011)。その内, “背中線(背面中央に前後に走る白い線)”が出現するカエルは, トノサマガエル *Rana nigromaculata* Hallowell, 1861 が知られる。また, ヌマガエル *Fejervarya limnocharis* (Gravenhorst, 1829) でも九州以北産では出現する個体が知られており(前田・松井, 1999), 下関市豊田町での調査では21%の個体に背中線が出現していたことが報告されている(川野, 2012)。そして, 稀にツチガエル *Rana rugosa* Temminck et Schlegel, 1838 でも背中線が出現する個体が知られている(前田・松井, 1999; 平井, 2007)。

なお, 山口県からはこれまでツチガエルの背中線が出現した個体は報告されていないが, 今回確認することができたので, ここに一資料として報告する。

発見状況

背中線が出現したツチガエル(図1)は, 岩国市二鹿地内のため池で2012年5月22日に確認した。本個体を確認したため池は直径約3mのほぼ円形で, 南側と西側が低木の樹木で囲まれて半日陰の状態であった(水深約20cm)。ため池では本種の他にトノサマガエル, モリアオガエル *Rhacophorus arboreus* (Okada et Kawano, 1924), シュレーゲルアオガエル *Rhacophorus schlegelii* (Günther, 1858) を確認した。



図1. 背中線を持つツチガエル(上)と持たないツチガエル(下)

背中線の観察

このため池においてツチガエルを16個体確認したが, その内背中線が出現していた個体は1個体のみであった。なお, その背中線は吻先から体の途中までで, 色はやや肌色がかっていた(図1)。平井(2007)は宮城県江合川において背中線が出現したツチガエルを確認し, その背中線は幅広で, 色は白ではなく黄土色であったこと, 延べ30個体採集した中で背中線が出現した個体は1個体のみであったことを報告している。

徳永浩之

## 謝辞

本稿をまとめるにあたり、有益なご助言を賜った岡田 純博士に対し、記して深謝申し上げます。

## 引用文献

- 前田憲男・松井正文（1999）「改訂版 日本カエル図鑑」98pp, 文一総合出版, 東京.  
平井利明（2007）背中線のあるツチガエル. 爬虫両棲類学会報, (1):17.  
川野敬介（2012）背中線があるヌマガエルの割合. 豊田ホテルの里ミュージアム研究報告書, (4): 73-74.  
岩国市科学センター（2011）「岩国市の自然」:133-134, 岩国市教育委員会岩国市科学センター, 山口県.